

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902971
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ光風台サンフラワー
訪問調査日	平成22年12月20日
評価確定日	平成23年1月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902976	事業の開始年月日	平成18年1月9日
		指 定 年 月 日	平成18年1月1日
法 人 名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ光風台サンフラワー		
所 在 地	(〒239-0820) 神奈川県横須賀市光風台29-18		
サービス種別 定 員 等	☐ 小規模多機能型居宅介護 ☒ 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成22年9月27日	評 価 結 果 市町村受理日	平成23年1月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流に力を入れていると思います。9/07日に地域の皆様と初のバーベキュー交流祭を開きツクイの和太鼓集団をお呼びして地域の皆様に披露いたしました。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評 価 機 関 名	株式会社 R-CORPORATION		
所 在 地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪 問 調 査 日	平成22年12月20日	評 価 機 関 評 価 決 定 日	平成23年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

・ホームツクイ光風台サンフラワーは京急 久里浜駅からバスで3停留所、下車徒歩10分の丘陵地にある個建て住宅が立ち並ぶ閑静な住宅街の一角に町並みに溶け込むような瀟洒な鉄骨2階建て造りのホームである。 ・法人の経営理念、「自立した日常生活を目指すケアの提供により、利用者様とご家族をサポートしていきます。」と基本理念「ツクイは地域に根付いた真心のこもったサービス提供をし、誠意ある行動で責任を持ってお客様と社会に貢献します。」に加え、事業所の職員で作った独自理念の「いつでもあなたを見守っています。何時でもあなたを信じています。何時でもあなたと歩んで行きます。」と謳われた理念をホーム玄関に掲げて、全職員で共有して日々、本人本位の支援が取り組まれている。 ・ホームでは理念の心の「何時でもあなたを見守って行きます。」に沿った、入居者支援で、一切の身体拘束は行わないとして、昼間の玄関口の施錠はしていない。 ・ホームでは地域密着を大事に考え、推進会議は2ヶ月に1回の開催計画が組まれているが、自治会長、民生委員など、地域の役職者を含めた出席者の日程調整が難しく流会する事もある中、地域で出席いただける方々に的を絞っての開催と事業所の企画でバーベキューや管理者が出演する和太鼓演奏などで近隣の方々と交えた交流を行って、地域に親しまれるツクイ光風台サンフラワーが構築がされている。 ・ホームではターミナルケアの方針を持っていて、経験もしている。入居時に終末介護についての説明を行い、本人、家族、医療機関の協力支援が整えば実施することを全職員が共有認識していて、ホーム職員の看護師と共にその体制が整えられている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	ツクイ光風台営業所
ユニット名	そよ風

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		レ	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		レ	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	実践はしているとは思いますが共有はまだまだ 出来ていない所があるのでつなげていきたいと 思います。	「何時でもあなたを見守っています。何時でも あなたを信じています。何時でもあなたと歩ん でいきます。」と謳った事業所独自理念を職員 は研修や会議を通じて理解していて、入居者へ のサービス提供時にも職員夫々に理念の心を理 解し反映している。しかし未だ職員間の理解度 に格差があり、今後理解レベルの同一化を進め 共有化に向けての取り組みを行う。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けら れるよう、事業所自体が地域の一員として日常 的に交流している	地域交流祭や運営推進会議を通して少しずつで はありますが交流はしてきているとは思いま す。	入居者の散歩時には行き交う、ご近所の方にこ ちらから声を掛けて挨拶をし、光風台サンフラ ワーを知って頂くように心がけている。また運 営推進会議の出席者を介して地域交流も進めら れている。事業所の企画としてカラオケ大会や 太鼓演奏会を開催し、市職員や地域の方々の参 加を募る等で地域交流を図るよう努めている。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	地域の方の支援の方法としてはまだまだ出来て いない所が多いと思います。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	近隣の方等にGHを見ていただいて意見を拾い サービスに活かしてます。	運営推進会議は2ヶ月に一回の計画で職員・自 治会班長・家族代表・ホーム職員・管理者の参 加の下、ホームの活動状況と行事の報告に加 え、災害時協力をお願い、更にはホームの内覧 をして頂き、議題として話し合い、それぞれ意 見要望などを頂いて検討の上、運営に反映して る。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	まだまだ連絡を密にする所まではいってませ ん。何かあれば伝える様にはしています。	市の長寿社会課とはホームの空き室状況などの 報告に加え、ホーム内で発生したヒヤリハット などの事故報告等を行って、市からは研修の案 内などを頂き、職員の参加で窓口とは交流が行 われている。	今後の継続	

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては場合によって夜間、受診等で職員が少ない場合、安全の為にやむを得ずする場合があります。	重要事項並びに契約書に、身体拘束は行わないと謳っていて、職員は研修や、カンファレンスで話題にし、法令で禁止されている拘束行為の内容と拘束によるデメリットを理解しており、一切の拘束は行っていない。従って日中の玄関施錠も行っていない。但し、夜間のみ、安全上から家族の了解を得て玄関の施錠をしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々では知識として理解はありますが、事業所ではまだ行っておりません。行えるように進めて参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での意見を踏まえ運営に活用しております。	家族の意見、要望に関するアンケートの実施と意見箱の設置を、重要事項説明ならびに契約書に記載して説明をしている。また、家族の来所時に入居者の生活状況報告を兼ねた話し合いの中から意見や要望を聴いている。また、運営推進会議でも意見を頂いている。頂いた意見はカンファレンスで検討し、フィードバックと共に運営に反映するようにしている。	今後の継続

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンスを開き反映させています。	月1回のカンファレンスや引継ぎ時などに職員の「思い、考え、意見、気付き」を管理者が聴いて、全職員が同じ水準で業務が出来る様に対応している。また管理者は常より職員との意思疎通に心がけ、インフォーマルにも食事会などを通して気安く話し合える関係構築に努力していて、その中からも意見、提案などの吸収もしている。受けた意見、要望は、場合によっては本部決済を受け運営に反映している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症対応で信頼関係はすごく大切です。本人が落ち着いて頂ける様関係作りに努めています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応は必要と考えて行動しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニット9名が生活していてそれぞれがいろいろな気持ちを抱いて生活しているので職員は一方の立場に着くことはなく関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族はいろんな形の絆を持っているため、本人を支える事、家族の負担ういお減らすことを考え関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人は入居者様を心配して来て下さるので関係が途切れず生活されています。	本人のこれまでの付き合い、馴染みが継続できるように支援している。嘗て通っていたカフェに職員と共に出かけるなどの支援をしている。また、馴染みの方の来訪時には湯茶の接待など積極的に支援をしている。その他、手紙や電話取次ぎは家族の了解を得て支援している。	今後の継続

平成 22 年度	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	9名で生活しているので全員にサービスが提供で きるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまで の関係を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	家族とご本人の関係性はとても大事なので相談 は必要で支援にも努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している。	本人本位に検討しております。	本人に寄り添うことで会話やサインで意向の把 握に努めている。また、全職員がその人の過去 の経歴を個人記録や家族からの話で把握してい て、会いたい人、行きたい場所、食べたい物と 場所等、時には家族の応援も得て常に本人本意 の対応に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	お部屋にその方の生活していたものを置く事 により馴染みやすい暮らしの援助に努めていま す。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活はそれぞれの生活があり現状の 把握には努めています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はまだ作成中もありますが、本人、家族と話し現状に即した計画を作成しています。	介護計画は日々の観察をもとに、家族の意見も取り入れ、必要関係者の出席のもと夫々の意見、アイディアを反映させて、現状に即した介護計画を立案しケア、カンファレンスで検討して計画書を作成している。作成された結果は家族の確認を得ている。計画の見直しは、6ヶ月を基本サイクルとしているが、変化があった場合は、都度見直しで対応をしている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し実践の反映に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様は常にいろんな感情をお持ちで柔軟でなければ対応は難しいです。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しめるように支援していければと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の近くに往診医を設けていて適切な処置を受けられる体制にしています。	入居時に、本人のかかりつけ医の継続受診希望を確認して継続希望の方には診療結果などの必要情報を、家族経由で共有して適切な医療支援をしている。また、他の方は、事業所の近くの24時間緊急対応がある往診医による受診にて適切な医療支援が行われている。その他、歯科医による医療支援の体制もとられている。	今後の継続

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師出勤の日に適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と連携しながら支援に取り組んでいます。	ホームでは入居時に家族に終末期介護に関する説明もしていて、経験もしている。契約医療機関の協力と、ホーム職員の看護師による支援体制の下で、ターミナルケアの体制を整え、今後とも家族の要望と医療機関の支援の下に対応する方針を持ち全職員間で共有している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当研修等に参加していますが、すべての職員が定期的に行ってはいません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施して全職員に対応を身につけて定期的に行っていく予定です。	防災意識を全職員で共有し、応急手当研修などに参加している。また、職員による入居者の避難誘導と初期消火、夜間を想定しての訓練なども所轄消防署指導の下で行われている。今後も定期的に行うよう計画をしている。防災に際し水、食料の備蓄もあり自治会の協力体制も推進会議を通じて要請している。	今後の継続

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者という人生の先輩に誇りを持ってもらえる様な声かけを心掛けるよう対応しています。	トイレ誘導時、食事の時に職員は、入居者の目線に合わせて、人生の先輩としての敬意をもって話しかけながら支援が行われていた。特にトイレ誘導では目立たないようにさりげなく誘導が行われている所を確認した。ホーム内での言葉使いは互いに注意するようにして、気がついた時点で管理者から気軽に指摘するようにしている。また、朝礼など機会を通じて介護の心得として確認に努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が手紙を出したいと言われたり、家族に会いたいと訴えがあったとき家族に相談し日にちを決め決定出来るように支援します。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名全体で生活している為その日の流れ（天候、気温）があるものの希望に添える様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方はその方の着たい物を着て頂き、介助が必要な方もその方が着て嫌にならないような対応を心掛けてます。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	そのご利用者の状態を見て座りながら食器の片付けをしていただいたり、調理の手伝いをして頂いたりしています。	ホームの食事は食材業者によるレシピと食材を使って職員によって作られている。入居者には盛り付け、配膳、下膳、など出来ることを手伝ってもらいながら食事準備が進められている。食事に当たっては入居者個々の量、柔らかさや、刻み、個人別に、きめ細かな対応をしている。食事中は職員が一人ひとりのペースを乱すことなく、会話を楽しみながら食事をしているところを調査時に同席することで確認できた。	今後の継続	

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を記録して一人一人の習慣（好き嫌い等に）合わせ支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声掛けをし促し介助がいる方はその方の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄に関しては介助が必要な方には自立に向けては難しい方もいるため対応が難しくなるが自立の方には出来る限り自立に向けた声掛けをしている。	夜間は転倒など危険防止も考慮に入れ、一部オムツ対応をしているが、昼間は個人別の排尿、排便記録を基に個人別パターンを全職員で把握して、時間を見計らいながらさりげなく誘導することで、オムツの使用量を減らしている。失敗の時は、他の入居者に気付かれる事のない様さり気ない誘導で、下着交換等の支援をしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には個々でトロミアップを出したり食物繊維を多いものをだして排便を促すようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望はありますが現時点では週二回入浴を楽しめる様にカレンダーに日にちを貼りお伝えしたりしています。	入浴は週2回行っている。季節には菖蒲湯や柚子湯で季節を感じて楽しんで頂くようにしている。職員は入浴の効用として、裸体時の観察で種々健康状態の把握がある事を承知していて、入浴を嫌がる人にも、気分を変えて時間をずらしたり、人を変えての声かけで誘ったり、シャワー浴に切り替えたりで、決して強制することなく対応している。	今後の継続

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠して頂ける様に電気を消した方が休める方、電気が付いてないと眠れない方個々に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が処方箋を詳しく表記して皆に伝わる様にして症状の変化と用法、副作用に関して周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのご利用者の状態を見て座りながら食器の片付けをしていただいたり、調理の手伝いをして頂いたりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族で出かけられる方は曜日を言っていたければ外出しています。施設でも行事を行い外出機会を設けています。	天気のいい日は決して無理強いすることなく本人の希望と体調を調べて、ホームの近くの散歩コースに出かける。また、ホーム入り口に設置されたベンチを利用しての日向ぼっこなども行われている。車椅子の方にも声かけをして、補助しながら出来るだけ出かけるようにしている。時には希望を聞いて、近くのレストランへ外食に出かけたり、地域のお祭りや花の国への花見、江ノ島などへも出かけて支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を持つことは施設では行ってなく、立替で買って後日請求という形をとっています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を書いて下さりお送りしたり、ご本人専用の携帯を用意していただき、そのつど連絡があった場合電話をする方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニット9名が生活している為季節感も居心地よく過ごせる配慮は行っています。	玄関、廊下、風呂、階段は清掃が行き届き、静かで日当たりの良い食堂兼居間は落ち着いた雰囲気、壁面には入居者の習字やクリスマスに因んだ季節感のある塗り絵が職員と共に作って飾られ、更に、ホーム行事時のスナップ写真なども貼られ、家族来訪時の話題づくりなどにも配慮した心地良く過ごせる工夫がされている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居室がありフロアに居たくない時に居室に戻られたり、外に散歩に出かけたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には入居の祭本人が使われているものを持ってきて頂いて生活しやすいように勧めています。	各人の部屋には使い慣れた整理ダンスや椅子が置かれ、縫いぐるみ、家族写真や入居者の得意を活かした習字、絵なども飾られ、各人の好みに沿った設えで、家庭的な居室が出来ている。各部屋にはクーラーも取り付けられていて、過ごしやすい様に空調管理もされている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やお手洗いには手すりがありつかまりリハビリしながら生活が出来る様になっています。基本的にバリアフリーになっています。		

事業所名	ツクイ光風台営業所
ユニット名	ほたる

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		レ	2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		レ	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		レ	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	レ	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		レ	2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		レ	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共 有して実践につなげている	実践はしているとは思いますが共有はまだまだ 出来ていない所があるのでつなげていきたいと 思います。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けら れるよう、事業所自体が地域の一員として日常 的に交流している	地域交流祭や運営推進会議を通して少しずつで はありますが交流はしてきていると思いま す。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知 症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	地域の方の支援の方法としてはまだまだ出来て いない所が多いと思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	近隣の方等にGHを見ていただいて意見を拾い サービスに活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	まだまだ連絡を蜜に取る所までは言ってませ ん。何かあれば伝える様にはしています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては場合によって夜間、受診等で職員が少ない場合、安全の為 やむを得ずする場合があります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々では知識として理解はありますが、事業所ではまだ行っておりません。行えるように進めて参ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等での意見を踏まえ運営に活用しております。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、カンファレンスを開き反映させています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症対応で信頼関係はすごく大切です。本人が落ち着いて頂ける様関係作りに努めています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応は必要と考えて行動しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニット9名が生活していてそれぞれがいろいろな気持ちを抱いて生活しているので職員は一方の立場に着くことはなく関係を築く様努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族はいろんな形の絆を持っているため、本人を支える事、家族の負担ういお減らすことを考え関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人は入居者様を心配して来て下さるので関係が途切れず生活されています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	9名で生活しているので全員にサービスが提供で きるように支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまで の関係を大切にしながら、必要に応じて本 人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努 めている	家族とご本人の関係性はとても大事なので相談 は必要で支援にも努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している。	本人本位に検討しております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	お部屋にその方の生活していたものを置く事 により馴染みやすい暮らしの援助に努めていま す。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活はそれぞれの生活があり現状の 把握には努めています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はまだ作成中もありますが、本人、家族と話し現状に即した計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し実践の反映に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様は常にいろんな感情をお持ちで柔軟でなければ対応は難しいです。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽しめるように支援していければと思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の近くに往診医を設けていて適切な処置を受けられる体制にしています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師出勤の日に適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院と連携しながら支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当研修等に参加していますが、すべての職員が定期的に行ってはいません。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施して全職員に対応を身につけて定期的に行っていく予定です。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	高齢者という人生の先輩に誇りを持ってもらえる様な声かけを心掛けるよう対応しています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が手紙を出したいと言われたり、家族に会いたいと訴えがあったとき家族に相談し日にちを決め決定出来るように支援します。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名全体で生活している為その日の流れ（天候、気温）があるものの希望に添える様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の方はその方の着たい物を着て頂き、介助が必要な方もその方が着て嫌にならないような対応を心掛けてます。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	そのご利用者の状態を見て座りながら食器の片付けをしていただいたり、調理の手伝いをして頂いたりしています。			

平成 22 年度	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量を記録して一人一人の習慣（好き嫌い等に）合わせ支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は声掛けをし促し介助がいる方はその方の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄に関しては介助が必要な方には自立に向けては難しい方もいるため対応が難しくなるが自立の方には出来る限り自立に向けた声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には個々でトロミアップを出したり食物繊維を多いものをだして排便を促すようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望はありますが現時点では週二回入浴を楽しめる様にカレンダーに日にちを貼りお伝えしたりしています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は安眠して頂ける様に電気を消した方が休める方、電気が付いてないと眠れない方個々に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が処方箋を詳しく表記して皆に伝わる様にして症状の変化と用法、副作用に関して周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そのご利用者の状態を見て座りながら食器の片付けをしていただいたり、調理の手伝いをして頂いたりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族で出かけられる方は曜日を言っていただければ外出しています。施設でも行事を行い外出機会を設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を持つことは施設では行ってなく、立替で買って後日請求という形をとっています。		

平成 22 年度	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が手紙を書いて下さりお送りしたり、ご本人専用の携帯を用意していただき、そのつど連絡があった場合電話をする方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1ユニット9名が生活している為季節感も居心地よく過ごせる配慮は行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に居室がありフロアに居たくない時に居室に戻られたり、外に散歩に出かけたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には入居の祭本人が使われているものを持ってきて頂いて生活しやすいように勧めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やお手洗いには手すりがありつかまりリハビリしながら生活が出来る様になっています。基本的にバリアフリーになっています。		

目 標 達 成 計 画

事業所

光風台営業所

作成日

平成22年12月20日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	55	ご利用者様の「出来ること、わかる事」残存能力を活かす取り組みが不足。	全職員が利用者に「出来ることやりたいこと」を勧める様にする。	ミーティング、カンファレンスを通して職員にご利用者様の話を聴いて思いを知ることの大事さを周知し現場に活かせるようにする。	1 年
2	54	ご利用者様本位の居心地良く暮らせる支援が足りない。職員中心の部分がある。	「ご利用者様本位の居心地よい暮らし」への支援をする	職員中心と成っている部分が何処なのかを明確にしてミーティング等話し合う機会を持つ。	6 ヶ月
3	48	ご利用者様に張り合いや喜びのある生活を送って頂いているか？	一日でも多く喜びのある生活を送れるように支援する。	全ご利用者様に「出来る事やりたい事」をして頂く様にして職員中心の部分を変えて行くことで、ご利用者に対応する時間が増え、出来る様になる	1 年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。